り方に関する方針を議案上程する際の考えは。

答　審議会の答申素案は、民間施設部分の意見が列挙されているが、ホールを公共で整備した時の効果最大化を求める記載もある。したがって、これに見合う内容を民間施設に求めていくものと考えている。議案上程時の方針への記載内容、あるいは決定後に要求水準など検討する中で示すか、については今後検討していきたい。

問　救急救命士の養成および救急業務高度化の取り組み状況は。

答　令和７年度は新たに２人が救急救命士の資格を取得したほか、３人が気管挿管を行うための資格を取得した。さらに、現職救急救命士を対象にアドレナリン投与等に必要な病院実習を実施した。また、埼玉県東部地域メディカルコントロール協議会を通じ、現場での症状を医師に伝え、救急救命処置に関する指示等を２４時間３６５日受けられる体制等を整備している。今後も救急活動の質と救命率の向上に努める。

民　生　分科会

越谷市手数料条例の一部を改正する条例制定について

問　コンビニ交付の交付手数料を据え置く理由は。また、窓口の混雑緩和に向け、コンビニ交付へ誘導するための周知方法は。

答　窓口交付では各種手続きの処理時間が窓口混雑の一因となっている。一方、コンビニ交付は場所・時間の制約や待ち時間がないことから、コンビニ交付に誘導するため手数料を据え置く。周知方法については、窓口でのチラシ配布、ホームページでの発信のほか、マイナンバーカードの交付率上昇に伴い、コンビニ交付が増加していることから、さらにマイナンバーカードを周知し、コンビニ交付へ誘導していく。

令和７年度越谷市一般会計歳入歳出決算認定について

問　成年後見制度に係る各事業の概要および適切な運用に向けた取り組みについて。

答　成年後見制度が身近なものとして活用されるよう、制度の普及啓発や個別相談対応を行い、本人およびその親族等を支援することを目的に「成年後見センターこしがや」にて事業を実施している。令和８年６月の法改正に伴い大幅な制度見直しが行われるため、今後も各種専門機関と連携を図り、切れ目のない支援を行うとともに制度の充実に努める。

問　コバトンＡＬＫＯＯマイレージ事業の登録状況および費用対効果についての考えは。

答　令和６年度末の登録人数３５８５人に対し、令和７年度末が４２８０人であり６９５人増加している。費用対効果について、委託料に人口割があるため参加者拡大を重要な課題と捉え、市独自のポイント制度「コバトンＡＬＫＯＯショップ事業」を設けており、楽しみながら健康づくりを行うことで参加者増加に努めている。

問　ペットの防災手帳・ペット緊急情報カードの配布状況および配布による反響は。

答　ペットの防災手帳は災害時の円滑な同行避難のためペット情報を整理しておく手帳で令和７年度は３０００部作成した。ペット緊急情報カードは災害等に備え、飼い主やペット情報を携帯できるようにしたもので令和７年度に１万５０００部を作成した。いずれも窓口のほか、市のイベントなどで配布し好評であり、引き続き動物愛護、適正飼養の普及啓発に努めていく。

問　グラウンド状況の悪化が目立つ中、市営野球場の改修工事の考え方については。

答　職員による施設巡回時に軽微な修繕を行っているほか、定期的に改修工事を行っている。大規模な改修工事については市全体の優先順位の中で検討する必要があるが、全ての施設が安全で、快適に利用できるよう精査し予算要求を行っていきたい。

令和７年度越谷市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

問　介護認定審査会の審査件数が増加した一方で、審査会の回数が減少した理由は。また、認定までの期間の考え方については。

答　増え続ける審査件数に対応するため、これまでも本市独自の簡素化を図ってきたが、令和７年度より国が例示する簡素化に変更し、一合議体における審査件数を増やした結果、審査会の回数は減少した。申請から認定までの期間については、県平均を下回る４２．１日となっているが、介護保険法では原則３０日以内に決定することとあるため、可能な限りこれに近づけるべく、審査会の効率的な運営に努めていきたい。

環境経済・建設　分科会

令和８年度越谷市一般会計補正予算(第２号)について

問　雨水流出抑制対策事業におけるしゅんせつ委託料の増額理由および見込まれる効果は。

答　小中学校の校庭の外周に設けたＵ字溝に砂が堆積して水はけが悪くなっているため、追加で２校の清掃を行うものである。これにより、計画どおり水が排出され、校庭の利用に支障がなくなることから、今後も計画的にしゅんせつを進めていく。

令和７年度越谷市一般会計歳入歳出決算認定について

問　食品ロス削減の啓発に係る取り組みは。また、宴会最後の１５分間における「食べきりいちごタイム」の対応状況は。

答　市内スーパー、コンビニなどにおける「手前どり」ポップの設置や、公共施設５か所で実施するフードドライブ、エコ・クッキングによる啓発などを行った。また、「食べきりタイム」の呼びかけは、今後、経済や子育てなどの関係部署とも連携しながら外部発信に努めていきたい。

問　自転車通行環境整備事業の令和７年度の取り組みは。また、今後の整備方針は。

答　令和６年度に行った既存道路の基礎調査の結果から、駅周辺で自転車利用が多く、自転車通行帯のある県道へ接続可能な北越谷駅東口線と蒲生駅東口線の２路線を選定し、設計図面の作成と警察協議などを実施した。

　今後は駅周辺の交通量の多い路線や、自転車通行帯が整備された県道に接続する路線、路面状態の良い路線を考慮しながら整備を進めていきたい。

問　新モビリティサービス事業「越谷げんきｄｅＭａａＳ」の効果および評価は。また、まちづくりの新たな担い手確保が重要課題であることへの認識は。

答　越谷げんきｄｅＭａａＳには約２万４０００人の利用登録があり、運賃補助による高齢者の移動支援、公共交通の利用促進という効果を見込んでいる。評価については、事業者・利用者からの好意的な声のほか、各事業者から実際に高齢者の利用が増えているという声も頂いている。また、経済、福祉、医療など、さまざまな視点をもって今後のまちづくりを進めることは大きなテーマであると受け止め、関係部課所と連携していきたい。

こども・教育　分科会

令和８年度越谷市一般会計補正予算(第２号)について

問　学校給食費実費徴収金の減額理由は。また、中学校の保護者負担の引き下げについて、保護者への丁寧な周知についての考え方は。

答　本市では新たな国の負担軽減交付金等を活用し、小学校は無償化を行ったが、小中学校間での負担の不公平感が生じていることから、国からの重点支援地方交付金を主な財源として、令和８年１０月から６カ月間、中学校生徒の保護者負担を引き下げることを予定している。また、周知方法については、速やかに保護者連絡用アプリ「すぐーる」等で今回の対応が期間限定であることを周知し、保護者の混乱が生じないよう努めていきたい。

令和７年度越谷市一般会計歳入歳出決算認定について

問　子育て世帯訪問支援事業における訪問員の資格の有無、研修方法は。また、今後の課題や展望は。

答　本事業において、国のガイドラインでは訪問員の資格要件は問われていないが、本市としては、一定の質の担保が必要であると考えている。そのため、こども家庭庁が公開している訪問支援用の研修動画を研修教材とすることとし、研修報告書の提供を求めている。また、本事業の利用を拡げるには心理的ハードルと経済的ハードルの２点が大きな課題であると認識している。今後の展望としては、現場のケースワーカーや保健師によるアウトリーチを通じた丁寧な制度説明を徹底するとともに、費用負担の軽減に向け、制度の見直しを視野に検討を進めていきたい。

問　学区審議会における協議内容は。また、適正規模・適正配置審議会とのすみ分けは。

答　学区審議会は、学区編成に関し必要な審議を行う審議会であり、基本的には学区の改変が必要であると教育委員会が検討している事項について審議されている。一方、適正規模・適正配置審議会は、教育委員会の諮問に応じて、学校の適正規模および適正配置に関し、必要な事項を調査、審議するものである。両審議会は、諮問内容と審議内容が異なるが、児童生徒の良好な学習環境を確保する面において、密接に関係していくものである。

問　小中学校の屋内運動場の空調設備の利用料を外部利用団体から徴収する場合の料金設定の考え方は。また、児童生徒がいる利用団体に対する減免措置の考え方は。

答　空調設備の温度設定によって多少の差異はあるが、利用した時間に応じた使用料になると考えられるため、料金設定についてはこれから精査していきたい。また、児童生徒がいる利用団体の減免措置については、空調設備自体が小中学校の児童生徒の暑熱対策であることから、検討しなければならないと考えており、順次課題を整理していきたい。

全体会において、以下のとおり討論がありました。
越谷市手数料条例の一部を改正する条例制定について…反対討論１件

各議案の概要は右記ＱＲコードからご覧いただけます。